

2018 年度 社会福祉学部

「学生による授業評価アンケート」

集計結果



発行:弘前学院大学社会福祉学部

FD 委員会

建学の精神

畏 神 愛 人

「神を畏れ人を愛すること」を基に、人間性豊かな人格の完成を目指し、文学・福祉・看護に関する高度な専門性を意欲的に追求し、地域や国際社会に貢献できる人材を育成する。

弘前学院教育方針

弘前学院の教育はキリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き真理を謙虚に追求しつつしんで神の御言葉を聞きすべての人を大切にする畏神愛人の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を積極的に果たす人間の形成を目的とする。

弘前学院大学教育理念

弘前学院大学は「弘前学院教育方針」に立脚した神と人とに仕え社会に貢献する「畏神愛人」を掲げる教育研究共同体である。本学は地球規模の視野に基づく正しい認識をもって自ら問題を発見し解決する知恵と力をもつ人材を育成する。それは人類への奉仕を目指す自由で幅広い学問研究を通してなされる。本学のすべての学生、教員、職員は相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつおのの立場において時代の要請に応えうる大学の形成に努める。

社会福祉学部 設置の目的

社会福祉学部の目的は、建学の精神である『畏神愛人』(人間尊重)の立場から「子どもからお年寄りまであらゆる人が抱える生活課題や地域で生じる課題に強い関心をもち、その問題解決のために必要な専門知識を身につけた人材」と「福祉に限らず広い知識と思考力を身につけ『福祉マインド』をもって社会に貢献できる人材」を育成することである。

社会福祉学部 教育目標

社会福祉学部では人間としての権利とは何か、人間としての尊厳とは何かについて等、人間存在の根源的テーマの1つひとつを各人に心底から問い合わせることのできる人材、かつ、豊かな社会の中で、又、激しい競争社会の中で、ややもすると、孤立しがちな人々の思いにしっかりと心を寄り添えることのできる人材の養成を目指す。

少子高齢化、人間関係の希薄化、格差社会等が叫ばれる中、生活していく上で課題を抱えた人は増加の一途をたどっている。また、その生活課題は複雑化している。国民の福祉に対する期待が高まる中、このような社会情勢の要請を受ける形で本学部は、教育面での到達目標を以下3点掲げている。

第1は、実践力のある社会福祉の専門職者を養成する。

第2は、社会福祉学を学んだ教員を養成し、社会福祉教育の進展に寄与する人材の輩出を目指す。

第3は、社会福祉の諸問題に真摯に向き合い、“いのち”や“暮らし”を保障していく立場を守り続ける生活者として生きる。

これらの人間形成に向けての教育に全学を挙げた取り組みを展開している

目 次

実施目的	1
アンケート様式見本	2
結果 I 2018 年度 全体 集計表	4
結果 II 過去 2 年との比較グラフ	6
2018 年度総括	11

2018 年度

「学生による授業評価アンケート」結果

●実施目的

学生による授業評価を通して、学生の意見を知り、社会福祉学部の教育を改善していくために行うことを目的とする。

●実施対象科目

2018 年度社会福祉学部開講科目のうち、59 科目で実施した。対象とした科目は社会福祉学部の専任教員が担当する科目であり、非常勤講師の受け持ち科目は除いた。また、対象は講義科目のみで、演習科目や実習指導科目、集中講義等は対象から除いた。

●総回答者数

科目登録者延べ 2317 名のうち、回答者総数は 1733 名。回答率は 74.79%。

●質問項目

共通質問項目 12 項目および自由記載欄。

●集計方法

回収したアンケート用紙(マークシート)を OCR で読み取り、各質問項目について単純集計を行った。また、過去 2 年の結果と比較し傾向を把握した。

●プライバシー・ポリシー

この授業評価は、学生の意見を知り、社会福祉学部の教育を改善していくことを目的として実施するものであり、それ以外の目的のために使用することはない。なお、個人情報保護の観点から、調査結果の取り扱いについては社会福祉学部社会福祉学科の厳重な管理の下に行うものとし、また実施にあたっては、回答結果から回答者が特定されることがないように十分に配慮するものとする。

様式

社会福祉学部 授業に関するアンケート（2017年度改定様式を使用）

このアンケートは、学生の意見を知り、社会福祉学部の教育を改善していくために行うものです。アンケートは無記名で行い、成績評価に使用することはありません。また、回答結果が担当教員に、直接的な利益、不利益をもたらすこと也没有。ありのままの考え方、事実を答えてください。

以上の点を理解の上、アンケートへの協力をお願いします。

以下の質問に対して、別紙の記入用紙に該当する番号にレ(鉛筆で濃く)を記入してください。

A あなた自身についてうかがいます

Q1 この授業に意欲的に取り組みましたか。

- 1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

Q2 あなたはこの授業について、授業外での学習(予習、復習、課題)を、平均して1週間にどれくらい行いましたか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 ほとんど行っていない | 4 30分～1時間ぐらい |
| 2 15分未満 | 5 1～2時間ぐらい |
| 3 15～30分ぐらい | 6 2時間以上 |

Q3 この授業のシラバスに示された到達目標や評価方法を知っていますか。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 よく知っている | 4 あまりよく知らない |
| 2 知っている | 5 知らない |
| 3 どちらともいえない | |

Q4 シラバスに示されている到達目標を達成できましたか。

- 1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

※裏面に続く

B. 授業についてうかがいます

Q5 授業内容の難易度は適当でしたか。

- 1 難しい 2 やや難しい 3 ちょうどよい 4 やや易しい 5 易しい

Q6 授業のペースは適当でしたか。

- 1 多い 2 やや多い 3 ちょうどよい 4 やや少ない 5 少ない

Q7 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったです。

- 1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

Q8 資料(ビデオ、スライド、プリント等)、板書は、授業内容の理解に役立ちましたか。

- 1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

Q9 教室の広さ、機器などの教室環境は適切でしたか。

- 1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

Q10 始業・終業の時刻は守られていましたか。

- 1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

Q11 この授業は、あなたの将来の学習の動機を高めるものになりましたか。

- 1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

Q12 総合的に見て、あなたはこの授業に満足しましたか。

- 1 そう思う 2 まあそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

C. この授業に関する感想・意見を自由に書いてください。

以上で授業に関するアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

結果Ⅰ 2018年度 全体集計表

A. あなた自身について

Q1. あなたは、この授業に意欲的に取り組みましたか。	回答総数					平均値
	そう思う (+4)	まあそう 思う(+3)	あまりそ う思わない い(+2)	そう思わ ない(+1)	無記入	
	534	932	226	40	1	3.13

Q2. あなたはこの授業について、授業外での学習(予習、復習、課題)を、平均して1週間にどれくらい行いましたか。	回答総数							平均値
	ほとんど行つ ていな い(+1)	15分 未満 (+2)	15分 ～30 分 くらい (+3)	30分 ～1時 間くら い(+4)	1～2 時間く らい (+5)	2時間 以上 (+6)	無記入	
	709	337	284	251	89	62	1	2.34

Q3. この授業のシラバスに示された到達目標や評価方法を知っていますか。	回答総数						平均値
	よく知 ってい る(+5)	知っ て いる(+4)	どちら ともい えない (+3)	あまり よく知 らない (+2)	知らな い(+1)	無記入	
	376	601	378	257	116	5	3.49

Q4. シラバスに示されている到達目標を達成できましたか。	回答総数					平均値
	そう思 う (+4)	まあそ う思 う(+3)	あまりそ う思 わない (+2)	そう思 わ ない(+1)	無記入	
	317	883	428	101	4	2.81

B. 授業について

Q5. 授業内容の難易度は適当でしたか。	難しい	やや難しい	ちょうどよい	やや易しい	易しい	無記入	回答総数
	372	657	673	18	11	2	1733

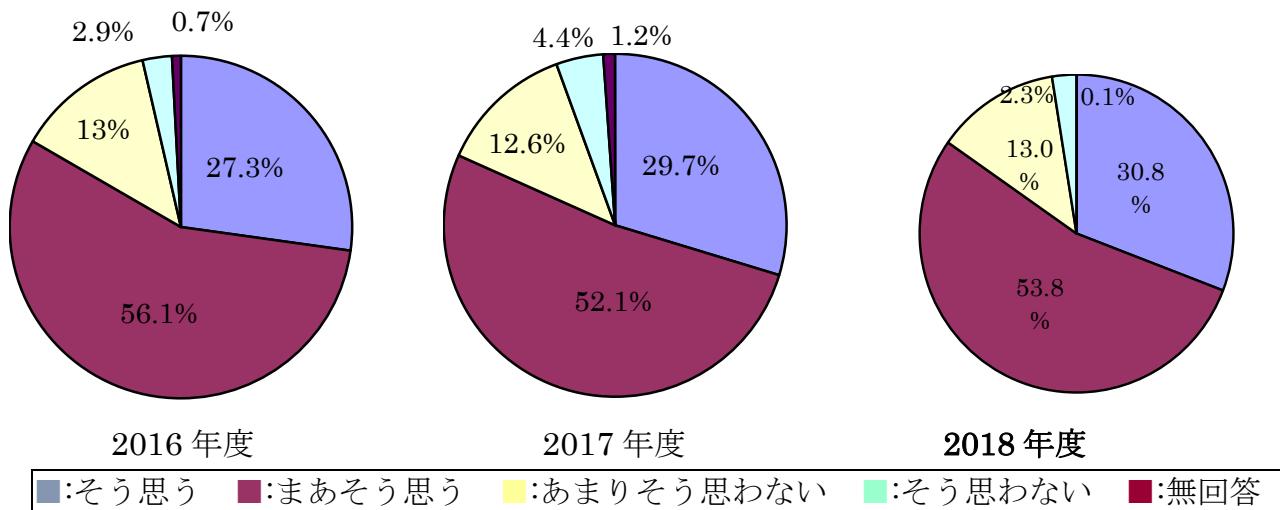
Q6. 授業のペースは適当でしたか。	多い	やや多い	ちょうどよい	やや少ない	少ない	無記入	回答総数
	287	495	917	24	8	2	1733

	回答総数					平均値
	そう思う(+4)	まあそう思う(+3)	あまりそう思わない(+2)	そう思わない(+1)	無記入	
Q7. 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	607	781	274	68	3	3.11
Q8. 資料(ビデオ、スライド、プリント等)、板書は、授業内容の理解に役立ちましたか。	796	746	136	52	3	3.32
Q9 教室の広さ、機器などの教室環境は適切でしたか。	802	673	188	67	3	3.27
Q10 始業・終業の時刻は守られていましたか。	1147	504	65	13	4	3.60
Q11. この授業は、あなたの将来の学習の動機を高めるものになりましたか。	629	837	201	61	5	3.17
Q12. 総合的に見て、あなたはこの授業に満足しましたか。	630	866	179	54	4	3.19

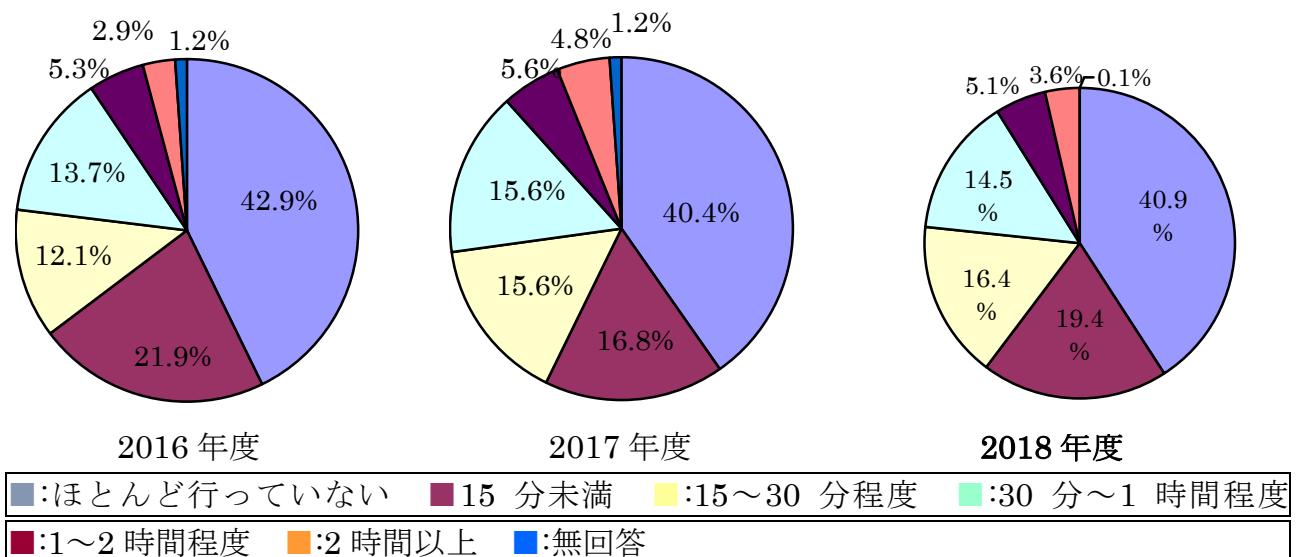
結果II 前年度との比較グラフ

A 学生自身の自己評価

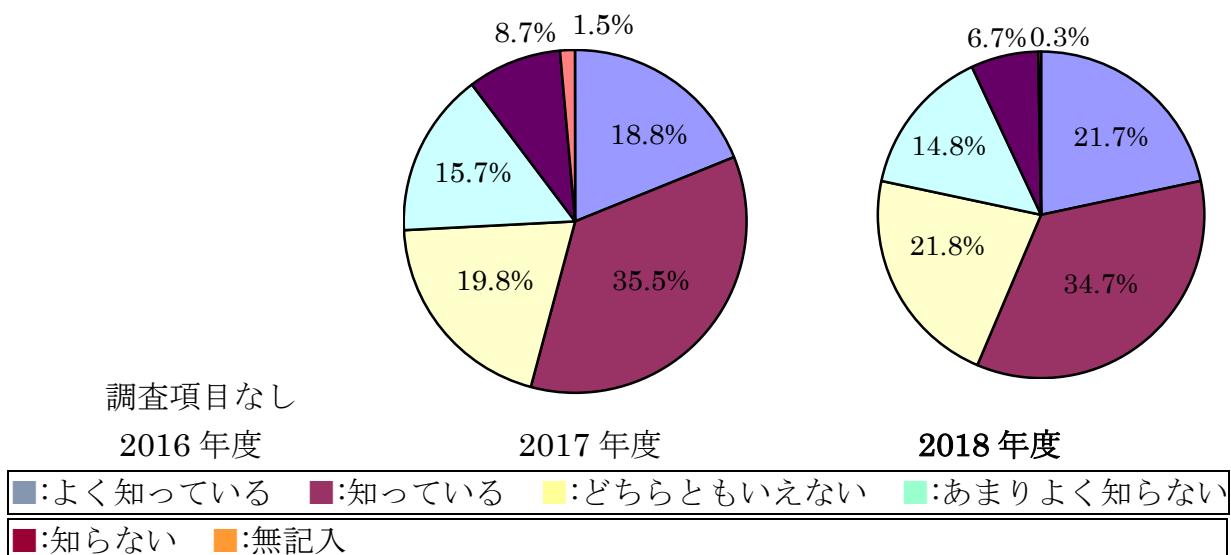
【質問項目1】この授業に意欲的に取り組みましたか。



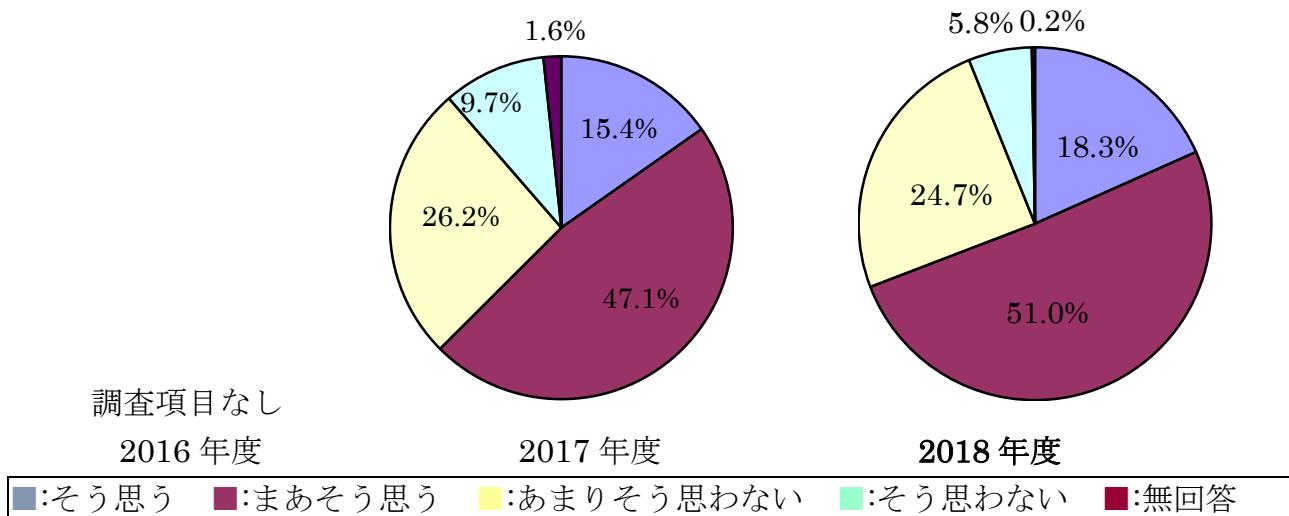
【質問項目2】あなたはこの授業について、授業外での学習(予習、復習、課題)を、平均して1週間にどれくらい行いましたか。



【質問項目 3】この授業のシラバスに示された到達目標や評価方法を知っていますか。

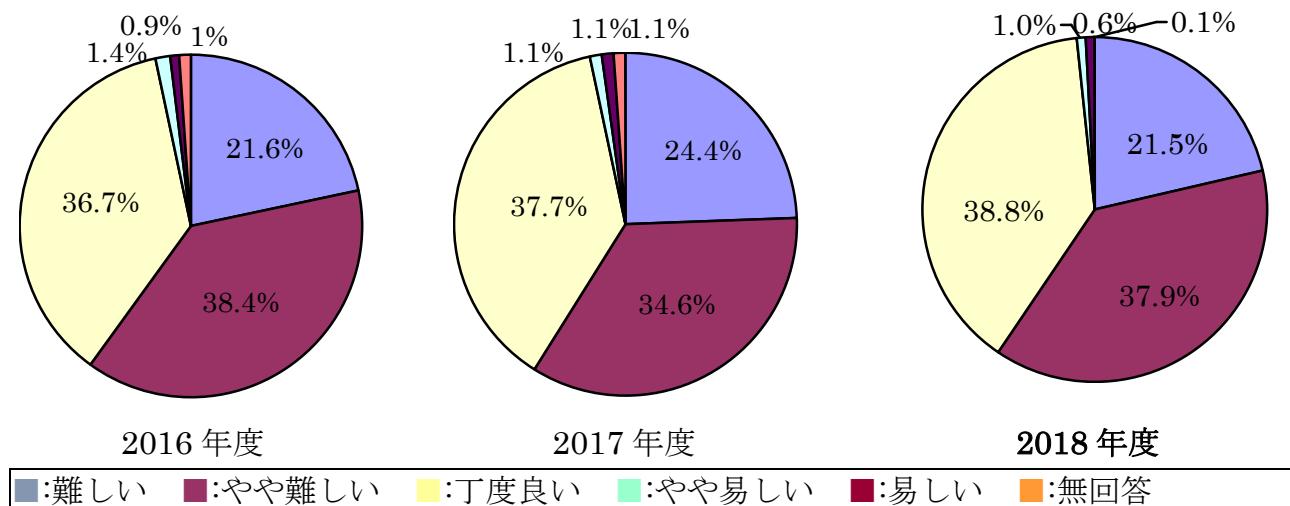


【質問項目 4】シラバスに示されている到達目標を達成できましたか。

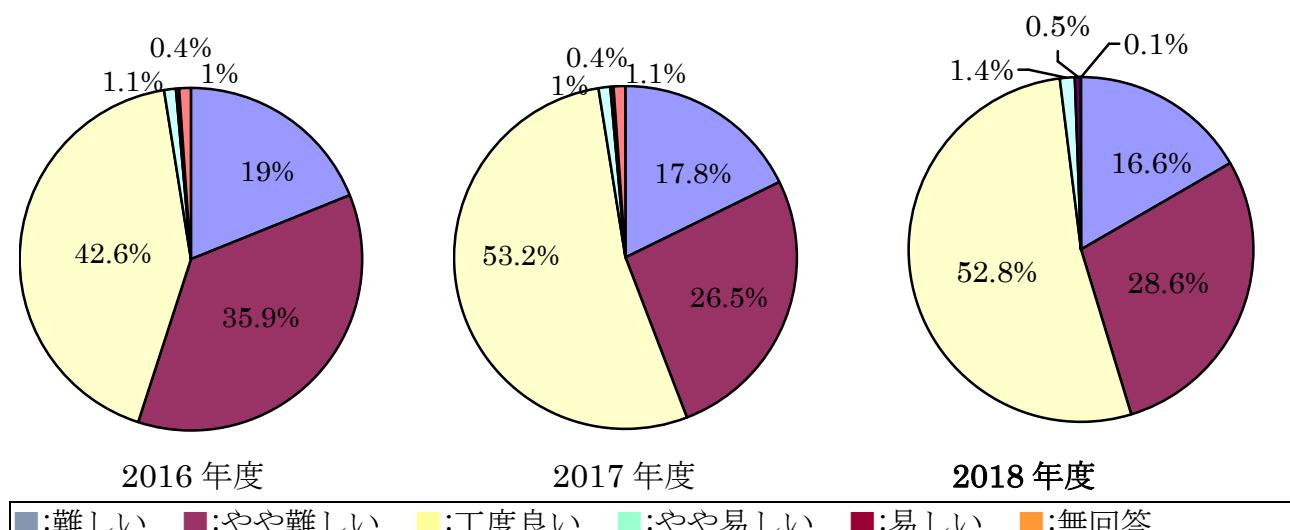


B. 授業に対する評価

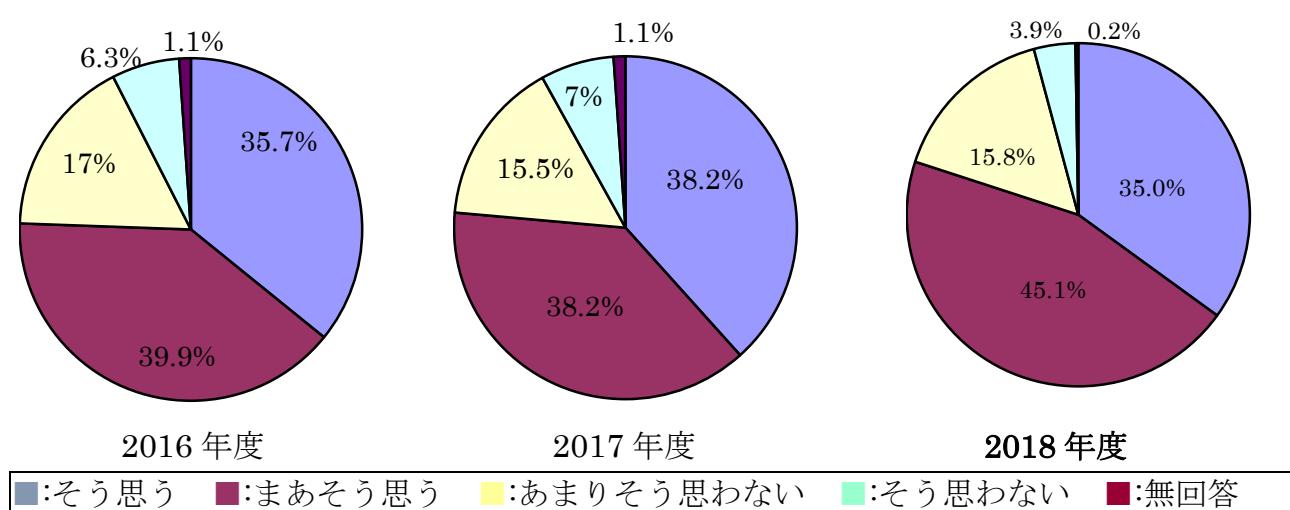
【質問項目 5】 授業内容の難易度は適當でしたか。



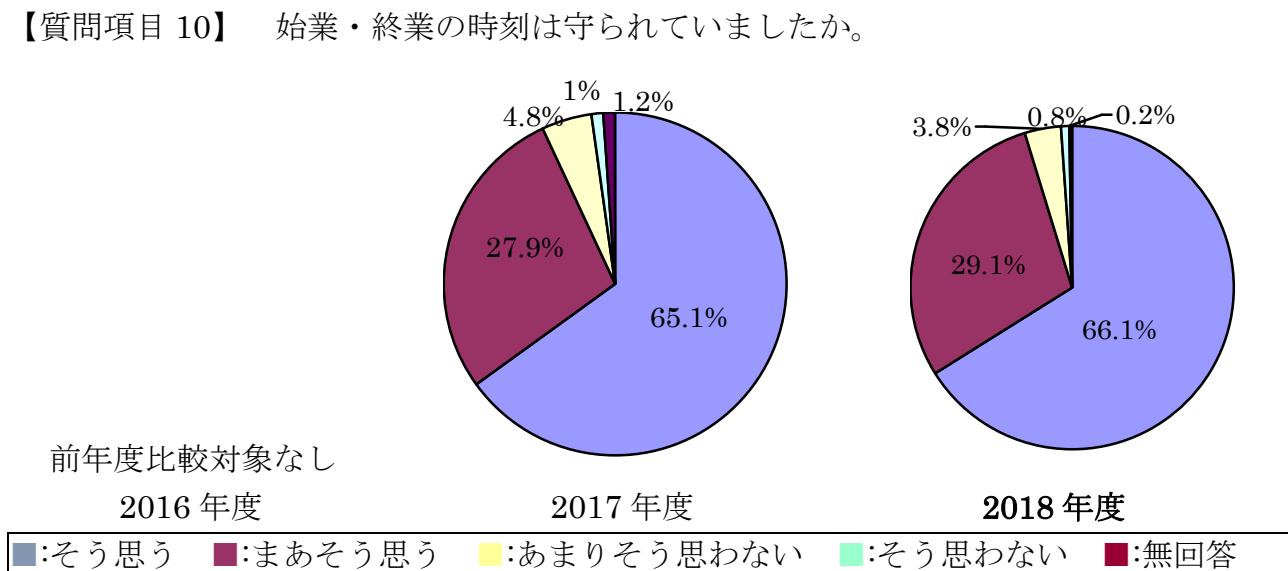
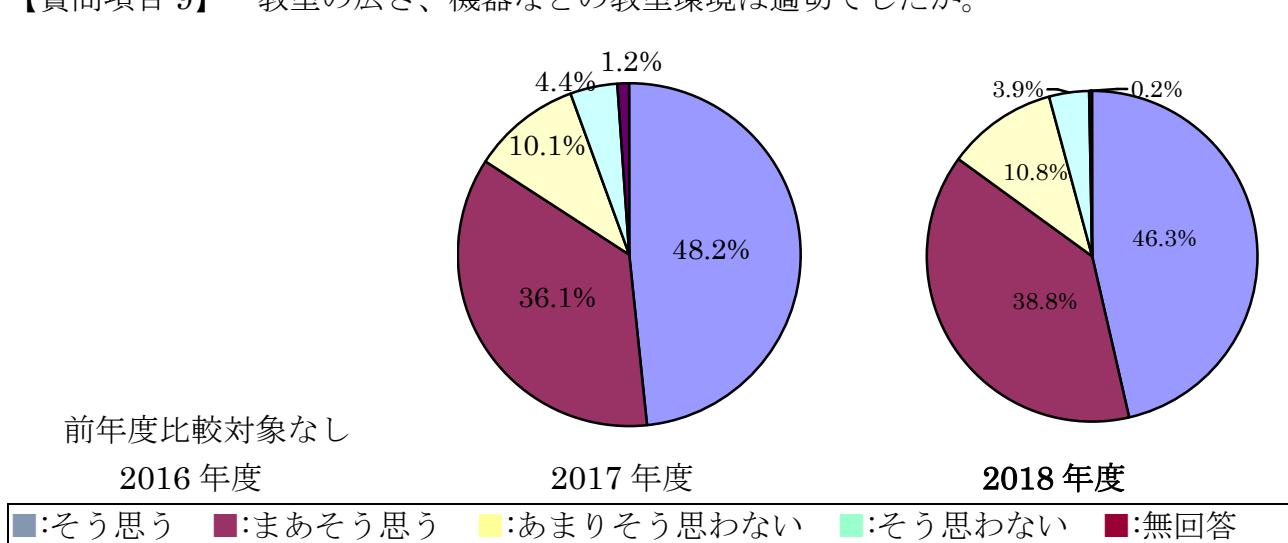
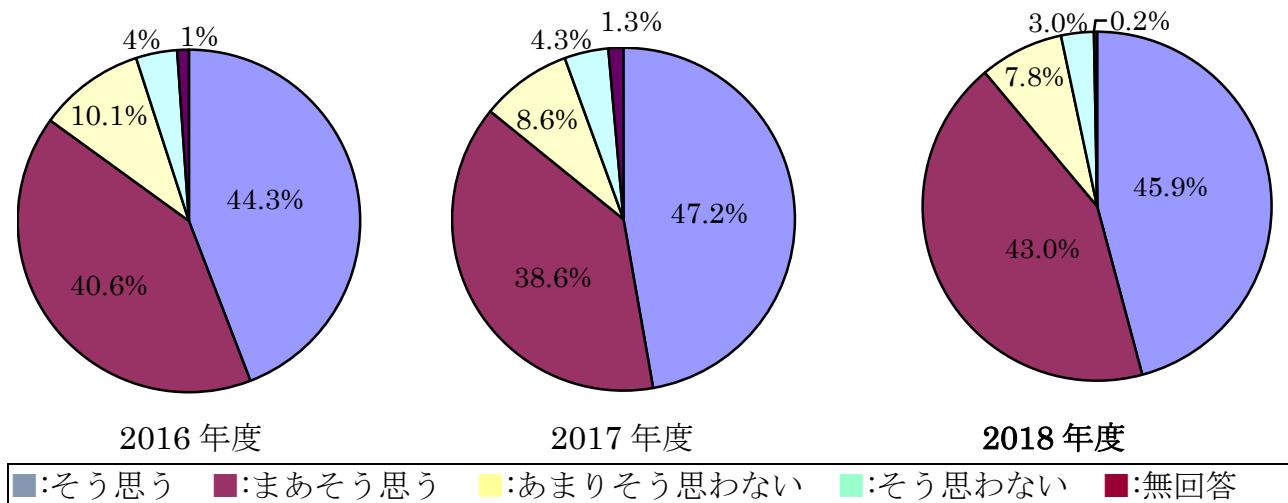
【質問項目 6】 授業のペースは適當でしたか。



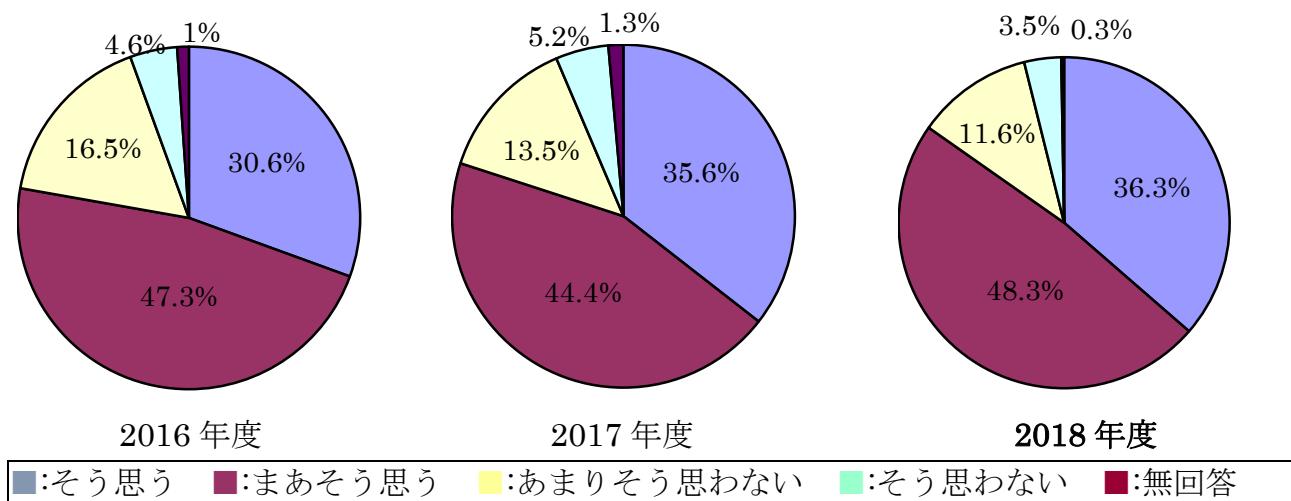
【質問項目 7】 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。



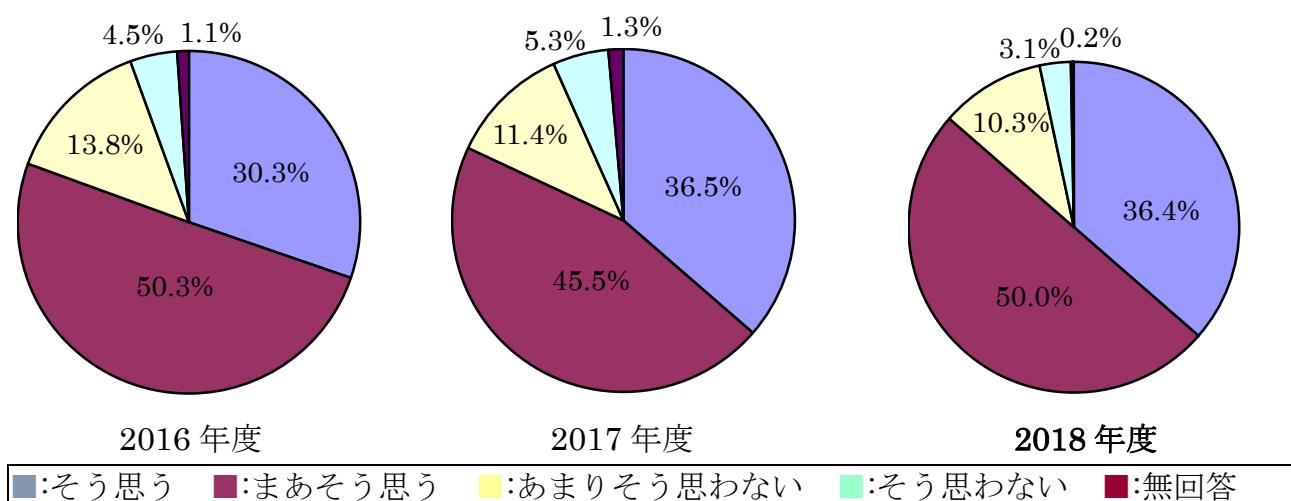
【質問項目 8】 資料(ビデオ、スライド、プリント等)、板書は、授業内容の理解に役立ちましたか。



【質問項目 11】 この授業は、あなたの将来の学習の動機を高めるものになりましたか。



【質問項目 12】 総合的に見て、あなたはこの授業に満足しましたか。



2018(平成 30)年度「社会福祉学部」授業評価アンケート結果から掘り起こされた教育改善の視点(総括)

質問 1 「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか」では、「そう思う・まあそう思う」と回答した比率が 84.6%となり、2017 年度の 81.8%、2016 年度の 83.4%と比較しても、最も多くなっており、授業への参加度が高まっている様子が見て取れる。特に、最も高い評価の「そう思う」の比率は、初めて 30%を超えて、積極的な評価に値すると思われる。

また、質問 3 の「シラバスに示された到達目標や評価方法を知っていますか」では、「よく知っている」を選択した学生が昨年に比較し、2.9%増加しており、反対に、「あまりよく知らない・知らない」という学生は、2.9%減少している。これは、シラバスの認知度が徐々にではあるが、上がっていることを示す。同時に、質問 4 の「シラバスに示されている到達目標を達成できましたか」では、「そう思う・まあそう思う」の肯定的評価が、昨年に比べ、6.8%増加しており、授業の達成度についても、シラバスとの関係で、肯定的にとらえる学生の増加が確認できる。特に、この項目では、「そう思わない」という最も否定的意見が昨年の約 2/3 に減少しており、シラバスに沿った授業の改善が見て取れる。

授業に対する評価についても、質問 5 の難易度は、徐々に「丁度良い」が増加しており、質問 6 のペースと相まって、2 つの点で、適当と考える学生が徐々にではあるが、増えていることがうかがえる。また、教員の話し方（質問 7）や資料等の評価（質問 8）についても、肯定的評価が順調に伸びていると言える。

こうした個々の評価に加え、総合的な評価としての質問 11 の「将来の学習の動機を高める」と質問 12 の「授業に満足したか」においても、継続して、肯定的評価が増加していることがうかがえる。

引き続き改善が求められる項目としては、何よりも、授業外での学習である。質問 2 の「授業外での学習（予習・復習・課題）等を平均して 1 週間にどれくらい行ったか」について、「1 時間以上」と答えた学生は、8.7%と昨年に比較しても減少しており、相変わらず、ほとんど行っていない学生が 40%を超えて現状も改善されてはいない。これらの、自己学習の推進が、何よりも本学に求められていることと言えよう。自ら予習し、わからない部分を復習する習慣の獲得が、是非にも必要であろう。

また、シラバスについても、改善する傾向にあるとはいえ、相変わらず、到達目標や評価方法を知らない学生が、15%前後いる状態が続いている。シラバスの到達度については、確実に良い評価が、増えてきているが、認知度を上げる努力、特に意欲の高くない学生に対して、挙げていく努力が求められていると言える。

今後は、良い評価が伸びている授業本体についての、継続的改善は、もちろんのことであるが、授業外での学習の動機づけをいかに行っていくかを検討する必要があると言えるだろう。また、シラバスに対する継続的認知度のアップも求められるところである。FD 活動においては、こうした改善点への対応を含め、どのように授業改善を行っていくかということを、皆で考察し、学生への対応の向上が図られるように、努力することが求められていると言えるのではないか。

**2018年度 社会福祉学部
「学生による授業評価アンケート」
集計結果**

2019年(令和元年)8月1日 発行
〒036-8577 弘前市稔町
弘前学院大学 社会福祉学部
2019年度 FD委員会
電話 0172-34-5211(代)
FAX 0172-32-8768